



歯科衛生士の仕事



歯科衛生士の仕事ってどんなもの？

🦷 口の中の健康をサポートする

歯科衛生士の役割は、患者さんの口の中の健康に関するさまざまなサポートをすることです。

その代表的な仕事内容として・・・

- 歯科医師がむし歯等の治療を行う際の補助作業
 - 健康な歯を保つための予防処置や保健指導
- これらが、歯科衛生士の重要な役割となっています。

★予防とは？： 特別な器具を使った歯石の除去やフッ素の塗布などを行うことにより、歯を失う原因になるむし歯や歯周病を未然に防ぐこと。



患者さんの歯が悪くなってから治療を受けるのではなく、できるだけ悪くならないような口の状態にするための手助けを行います。

🦷 健康を維持するための保健指導

いくら歯石の除去やフッ素を塗布しても、それだけでむし歯や歯周病が完全に予防できるわけではありません。

最も大切なのは、患者さん自身が普段から自分の口の状態に目を向け、きちんとした歯磨きの方法を身につけて実践することです。

そのために、歯科衛生士は患者さんに対して正しい歯ブラシの使い方や磨き方を指導します。また、むし歯や歯周病になるかどうかは食事の取り方や生活習慣とも密接に関わっているため、患者さんの話に耳を傾けながら、その改善指導を行っています。

🦷 健康な体は健康な口から

「健康は口から」といわれることもあるように、誰でも歯が悪ければしっかりと食事がとれず、元気に暮らせなくなってしまいます。高齢化社会が進み、人々の健康や美容への関心も高まる中、ますます歯や口に関する病気の予防が注目を集めており、歯科衛生士の果たす役割の重要性も見直されています。



歯科衛生士の魅力

🦷 国家資格が必要な仕事

歯科衛生士は国家試験に合格し、歯科衛生士の資格を取得することでなれる職業です。専門性が高く、健康増進法といった法律により活躍の場が認められています。近年、少子高齢化の問題や健康・美容への関心の高まりにより、歯科衛生士の需要がますます高まっています。



🦷 多くの患者さんとの触れ合い

歯科衛生士は歯科医師と同様、患者さんの口の健康を直接サポートすることができます。

歯科衛生士の主な役割

- 歯周病やむし歯の予防
- 歯石や歯垢除去
- 歯磨き指導

不具合を訴えて来院した患者さんの口の中が改善されていくのを診ることができ、直接患者さんから感謝の言葉をもらえる機会がとても多いです。

歯を健康で長持ちさせることの大切さ、噛めることの素晴らしさを患者さんと一緒に分かち合えることが歯科衛生士の魅力です。

歯科衛生士のやりがい

🦷 患者さんからの「ありがとう」

歯科衛生士は子どもからお年寄りまで毎日幅広い年代の患者さんと接します。医師のサポート役として診療補助や歯周病・むし歯予防処置を通し、患者さんの口の中が改善されていくのを直接見ることができ、達成感を得ることができます。

歯科衛生士は診療の際に、患者さんとコミュニケーションを取ることで、患者さんから「ありがとう」と直接言われる機会もとても多い職業です。また、不安な表情をして来院した患者さんが、治療を終えて笑顔で帰る姿を見られることも歯科衛生士のやりがいとなります。

患者さんの笑顔と感謝の言葉は、歯科衛生士として働く上で一番の支えになるでしょう。



🦷 ステップアップしていける

歯科衛生士は国家資格なので、一生ものです。歯科衛生士は歯科医院に勤めることが多いですが、大学病院や総合病院、保健所や福祉施設など活躍の場がさまざまあります。企業で歯ブラシやむし歯予防の製品開発に携わったり、歯科衛生士を養成する衛生士学校で学生に指導するなど、ステップアップしていけるチャンスが多くあるのも、歯科衛生士の魅力です。

歯科衛生士に向いている人

🦷 清潔感がある、細かい作業が好き

患者さんの口の中に直接手を入れて行う作業が多く、清潔感がある事がとても大切になります。たとえば、身だしなみがだらしないと患者さんに「この人で本当に大丈夫なの？」と不安に思われてしまいます。

歯科医院のような医療機関では院内感染を防ぐため、清潔さに常に敏感である必要があります。患者さんの健康を守るために、手先の消毒や器具の滅菌など、清潔感を徹底することが重要です。

また、歯科衛生士は歯石や歯垢を取るといった細かい作業が多いので、手先が器用な人が向いているでしょう。



🦷 人と接することが好き

歯科衛生士は子どもからお年寄りまで幅広い年代の患者さんと接します。

患者さんがリラックスできるように、コミュニケーションを取ることも、とても重要になります。また、患者さんのやる気を引き出すような歯ブラシ指導をするなど、コミュニケーション能力が求められます。

知識や技術だけでなく、初めて会う人にもにこやかに話することができる人が向いているでしょう。自信のない人でも、患者さんの役に立ちたいという気持ちがあれば問題ありません。

コミュニケーションや手先の器用さは徐々に身につけることができるので、日々の積み重ねが大切です。



どうやったら歯科衛生士になれる？

🦷 歯科衛生士になるには

歯科衛生士は歯科医師のサポートをする仕事です。

歯科助手とは違い、患者さんの口の中に直接手を入れ、むし歯や歯周病予防の処置を行うことができます。たとえば歯石を取るクリーニングやフッ素の塗布です。

また、患者さんに対して正しい歯磨き方法や生活習慣の改善指導をすることができ、医師が行う抜歯の治療に立ち合うことも数多くあります。

そのため、資格や経験がなくてもなれる歯科助手とは違い、歯科衛生士は国家資格を取得することが義務付けられています。国家試験を受けるためにはまず、歯科衛生士の勉強ができる教育機関に通わなければなりません。

高校卒業後、厚生労働省と文部科学省が認定する

歯科衛生士養成の専門学校や短期大学に通い、3年間勉強をします。



歯科衛生士の日

出勤し、仕事着に着替え、身だしなみを整えて仕事が始まります。

- 院内の清掃
- ↓
- 機材の準備
- ↓
- 予約の患者さんのカルテを出す
- ↓
- 一日の仕事内容とスケジュールを確認



診療開始

- 患者さんを笑顔でお出迎え
- ↓
- コミュニケーションをとりながら、口の中の健康をサポート



歯石の除去



歯ブラシ指導



フッ素塗布



手の空いたときは歯科医師の横に付いて診療アシスタント業務も行います

患者さんを待たせてしまわないよう迅速かつ丁寧に患者さん一人ひとり、口の中に変化がないかきちんと確認をします。

患者さんは不安を抱えて来院するので、作業ばかりに集中せず安心感を与える
対応を常に心掛けなければなりません。

診療終了

- 後片付け・清掃
- ↓
- 着替えて帰宅

